

## 会 議 記 録

会議名称	第5回杉並区社会教育委員の会議
日 時	令和6年5月24日（金）午後3時01分～午後4時58分
場 所	東棟6階 教育委員会室
出席者	委員 諸橋、宮内、檜枝、南、青木、天野、荻上、内山 区側 生涯学習担当部長、生涯学習推進課長、中央図書館長、 学校支援課長、社会教育センター所長、管理係長、 家庭・地域教育担当係長、学校教育担当係長、 社会教育推進担当係長（社会教育主事）、 社会教育センター社会教育推進担当係長（社会教育主事）、 社会教育センター職員
配付資料	<配布資料> 1 第4回社会教育委員の会議記録 2 人事資料 3 社会教育関係団体への補助金交付に係る資料一式 4 今後の会議開催予定について 5 前回までの発言整理 <参考資料> 1 すぎなみ大人塾地域コース「コミュニティデザインって!？」 チラシ 2 「杉並文学館」井伏鱒二と阿佐ヶ谷文士 3 史跡散歩クイズラリー 4 博物館カレンダー「博カレ」令和6年5月号 5 IMAGINUS 広報紙イマジナスニュース Vol.05 6 「親子でサイエンス」5～6月開催イベントチラシ 7 令和5年度青少年委員実践集録 8 東京都生涯学習審議会（建議）「地域・社会とともにある都立 学校を目指して-都立学校公開講座の在り方を中心に-」
会議次第	I 報告事項 1 社会教育主事の新規採用について II 協議事項 1 社会教育関係団体への補助金交付について 2 今期の検討課題「社会教育活動への支援のあり方について」 について テーマ：学びのつくり手になっていくための支援 III その他

	次回予定
(意見要旨)	
<p>○副議長 議長欠席のため、代理で進行させていただきます。はじめに生涯学習担当部長のご挨拶をお願いします。</p> <p>○生涯学習担当部長 4月に生涯学習担当部長になりました。どうぞよろしくをお願いします。区の社会教育振興にご尽力いただき感謝申し上げます。 大人が自由に集まり、仲良くなり、地域で楽しく学び合える人たちが増えていく、増やしていけるのが社会教育であると思っています。 今日は検討課題のほか、社会教育関係団体の補助金の交付についてご意見をいただく予定になっていますが、どうぞよろしくお願ひいたします。</p> <p>○副議長 配付資料の確認をお願いします。</p> <p>○社会教育推進担当係長(社会教育主事) 配付資料の説明</p> <p>○副議長 それでは協議事項に入ります。社会教育関係団体への補助金の交付について、事務局から説明をお願いします。</p> <p>○社会教育推進担当係長(社会教育主事) 配布資料3に基づき説明</p> <p>○副議長 それでは、ご質問やご意見などがありましたら、いただければと思います。 中学校PTA協議会が申請されないというのは少し驚きました。これは何か理由があつてのことでしょうか？</p> <p>○家庭・地域教育担当係長 昨年度、中学校PTA協議会は、コロナ禍で減少した活動量を元に戻そうとしましたが、なかなか戻すことができませんでした。検討の結果、繰越金と会費収入で運営できるので令和6年度補助金の申請はせず、7年度以降はまた元に戻すことを考えています。</p> <p>○委員 PTAは会費を払っています。手間がかかるとは思いますが、毎年返金していけば、繰越金が増えずに済んだのではないかと思います。今後、もしまた繰越金が貯まることがあった場合、今と同じやり方でいいか検討する必要はないでしょうか。</p> <p>○学校支援課長 社会教育関係団体は必要な活動を自己負担で行うのが基本ですが、公益的な活動をしながらも自己負担だけでは十分な活動ができないところから補助金の申請があります。 今回の中学校PTA協議会の判断としては、会費で運営できるのであればあえて補助金をもらうという判断はせず、令和5年度の補助金は返し、令和6年度は申請しないことにしたということです。 今、中学校PTA協議会では、加入率低下や協議会への参加について議論しており、活動のスリム化を図っているところでもあります。会費についても、その中で議論を見守っている状況です。</p> <p>○委員 活動は会費で運営するのが基本なので、また補助金の申請があつたときには相談に乗るのでいいと思います。</p> <p>○副議長 それでは本件に関しまして、問題なしと回答して、よろしいでしょうか。</p> <p style="text-align: center;">( 了承 )</p> <p>○副議長 この件は教育委員会から議長宛てに依頼が出されていますので、結論を議長にご報告いただき、区への回答は議長からさせていただきます。 それでは検討課題に移ります。事務局から説明をお願いします。</p> <p>○社会教育推進担当係長(社会教育主事) 資料等説明</p>	

- 副議長 今回は「学びのつくり手になっていくための支援」がテーマですが、その前に、前回、欠席された委員からのご発言いただきたいと思ひます。
- 委員 仕事の都合で地方に期限付きで来ています。地方は地域とそこに住む人の関わりがとっても濃いと日々感じています。積極的に地域に関わることが当たり前という土壌があります。それはなぜかと考えたら、一つには、人口減少や地震対策など、その地域特有の危機感だと思ひました。だから大人も子どもを子ども扱いせず、地域の一員として接していると感じます。こちらに来て、そういう考え方が大事だと気が付きました。
- 委員 その地域の文化を伝えていかないとその地域が成り立たないところは、地方にはたくさんあります。地方では人口も都市ほどは増えていないから、みんなで共存するための祭りとか行事を子どもの頃から伝承していかなければいけないのではないのでしょうか。
- 杉並区の学びと地方の学びは多分全然違って、急速に地方は人口減少が進んで担い手がなくなりつつある。逆に東京は人が多過ぎて、どうやって人とのつながりをつくるのかを考えるようになって、学ぶことはたくさんあると思ひました。
- 副議長 地方は地方で主体的に学んでいる子どももいれば、やらされている感がある子どももいるかもしれないと思ひます。学びって何だろうと思ひます。きっと誰かにやらされるのが一番苦痛だと思ひます。
- 委員 それを言うと、学校教育って、何だろう？本来、学びというのは自発性であり、その子どもに合うようカスタマイズされるものだと思ひます。
- 委員 児童館のお手伝いをしていると、子どもたちの中に自治があり、大人に関わってもらいたいタイミングや考えがあることに気が付きます。子どものころから社会に関わり、大人と地域で何かやる積み重ねが、結果的にその人の学びへの姿勢や態度につながるのだとしたら、地域で何かに取り組む大人の姿を見ていない子どもがどんどん大きくなっていくのだという危機感があります。
- 委員 義務教育である学校教育の9年間のように、定年を65歳として、例えば75歳までの10年間を、人生100年時代における大人の義務教育と位置付けるぐらいの発想があってもおもしろいような気がしました。また、たとえば社会教育のための税のようなものを導入して一定の財源を確保し、大人の学びを支える社会的な仕組みを検討しても良いのではないかと思ひます。
- 委員 人口が多い都会では、常に新しいものをつくり出して多様なものやることができるので、学び直しというのは本当にすばらしいと思ひます。都会のメリットを生かして、生きるための学びや個人の興味など自由度がある中で様々学ぶことができれば、本当にすてきな場になると思ひました。
- 委員 制度にするのは大変ですが、そういうマインドで仕組みやお金の使い方を見直すと、いろいろ新しいことができるのではないのでしょうか。今、一番大切なことは持続可能なことです。65歳になったらいかに持続可能な社会がつかれるかマインドを変え、社会教育で学んでみようということだと思ひます。
- 生涯学習推進課長 義務教育後の教育を充実させるのは当たり前のことだと考えています。限りある予算をどう分配するかになると、これまで文化や学びの比重は低かったと思ひますが、これからの人生100年時代、健康に過ごすためにかけるべきものはかけて、そういう場を提供することは大事だと考

えています。そういう意味で大人の義務教育の話は、非常に斬新な考え方だと思います。ただ決定的に違うのは、社会教育は義務ではないというところです。やりたい人がやれる環境を整えることが重要です。

旧態的なつながりや役割は嫌だけれど、講座等の参加者の感想を聞いていると、人間である限りつながらずには生きていけないのだと感じます。だからこそ、都会では人工的につながるための場をつくらなければならないのだと思います。

○委員 東京は万国博覧会ではないけれど、背景の異なる人が集まっており、人と会うだけでワクワクします。人工的につくっていくのも東京のメリットだと思います。

○委員 コミュニティデザインではテーマ型と地縁型という考え方があります。今の東京でできることは好きなものがベースとなるテーマ型で、フラットで新しい人間関係が築けます。地縁的な場に出ていなくても、住んでいるまちを好きだと言って何も言われないのは東京ならではだと思います。新しい人が新しいことを始めたときに、いいねと言ってくれるコミュニティが東京ならではのアプローチだと思います。

○委員 学びの目的が何かということを考えてときに「生きがい」としてしまうと、自己価値を高めるようになってしまいます。自分の価値を高めたいから学ぶとなると、その循環は自分の中で止まってしまいますが、それをいかに社会に還元して循環させていくかが大切です。お互いに生きる力が高まるということで「生きがい」という言葉ではない方がいいと思います。

山積する都会の問題をどうしていくのか枠組みをつくるのが行政の役割で、その先の具体化は、興味を持った人たちの中で解決策を考えていくという実践の場だと思います。そこをうまくコーディネートするのが社会教育士などで、それによって助かる人たちが出てくるのが成功事例につながるのだと思います。

○副議長 自分がやりたいことを学ぶのも大切ですが、それだけだと区で後押しする意義がずれてしまいます。誰かの課題、問題、不安に自分ができることで解決に結びつける、一緒に取り組みながら解決に向かう。こうしたことで学ぶ意欲もさらに湧いてきます。それをコーディネートする人が大切です。

課題や不安を解決していく学びは参加しやすいです。「この課題を解決するために力を貸してください」「大変な思いをしている人たちがいるので皆さん一緒にやりましょう」というように、社会に生かされていくコーディネーターができると、主体的な学びになると思います。

○委員 学びにはいろいろな意味があり、私はどちらかという、学ぶこと自体が楽しいタイプの学びが好きです。何かのために学ぶのももちろん大切ですが、好きなことを一生懸命学んで、分からなかったことが分かる喜びや充実感を子どもたちに味わってもらいたい。芸術にも、社会的課題を解決しようというタイプもあるが、描かずにはいられないタイプもあると思います。学びとは、とても幅広いということを書いたかったです。

○委員 やりたいことをやるのが、結局は主体性につながります。自分がやりたいことから始めて、地域課題解決につながったという結果になることがいいと思います。

○委員 何を学びたいのかわからないという人もいることを前提にアプローチすることが必要ではないでしょうか。人それぞれ、その人にしかない役割が

あるはずなので、そのことに気付けるよう、社会教育士がアウトリーチして寄り添うことができれば、世の中が良くなっていくと思います。

既存の学校施設も、子どもたちだけではなく、地域の大人が学ぶ場として生かされていけば、生涯学ぶということがもっと感じられると思います。

○委員  どんな風景をつくりたいかを意識するのはすごく大事だと思っています、私はサンフランシスコのNPOの教育支援現場とイタリアトリノの公民館のような施設の風景が思い浮かんでいます。サンフランシスコでは時間に余裕のあるおじいさんが居場所のない子どもたちに宿題を教えていました。トリノでは、アフリカ系移民に無料でイタリア語を教えたり、安く食事ができるようにして、毎日来られるようにしていました。気合いを入れてやって来る場所ではなく、気の抜けた状態で来られる風景を誰かが設計していると思いました。私たちがつくりたい風景には、どんな人がいるのか考えることが発見であり学びだと思いました。

○副議長  ありがとうございました。

               そろそろ時間になりますので、事務連絡をお願いします。

○社会教育推進担当係長（社会教育主事）  次回の案内

○副議長  最後に課長からご挨拶をお願いします。

○生涯学習推進課長  今日は議長が急遽欠席された中での会議でしたが、ありがとうございました。議論の詳細を議長にお伝えしたいと思います。次回もぜひよろしくをお願いします。本日はありがとうございました。

○副議長  ありがとうございました。これで閉会します。